

(みよし市) 三好丘小学校 CS・地域学校協働本部

市町村の 基本情報	学校数	小学校 8 校、中学校 4 校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	1 人	
		地域学校協働活動推進員	41 人	
	状況	統括コーディネーター	0 人	
		地域コーディネーター	0 人	
	CS 及び地域学校協働本部設置状況	CS を導入している学校数	小 8 校	中 4 校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小 8 校	中 4 校	



(活動の実際)

＜目的＞

- ・地域人材と連携した教育活動支援、地域力による不登校・貧困・外国人支援、の 2 本柱で地域の子を育てる。

＜活動内容＞

- ・目指す姿「学校の経営方針」「地域連携の意義」の共有
- ・地域のボランティアによる、教育活動支援
(例) 授業支援 (家庭科、多文化理解、生活科、防災等)
引率支援 (街探検、アジサイ植栽等)、読み聞かせ
- ・関係機関や民生児童委員らと共有した「児童・家庭支援」
(例) 校区委員会で、要支援家庭の支援方針を共有、
学校、社協、民生、市教委らと連携し家庭訪問、
子ども食堂と連携し、要支援家庭と地域のつなぎ、
社協・民生と連携し、要支援児童を対象、毎週月曜
「寺子屋学習会」、長期休業の「居場所づくり」等

＜意識していること＞

- ・子供を常に中心に。子供たちや保護者の声を聞き、実態をつかむ。家庭との連携強化。
- ・推進員や学校運営協議会委員、区長、民生児童委員など、地域有識者の力を集め、支援策を共有。
- ・校長教頭が経営方針を明確に示しリード、民生や社協、市教委と連携した有機的役割分担。

(活動の流れ)

- ① 校長、教頭と市教委が、連携のあり方や方針、推進員の人選を打ち合わせる。
- ② 推進員と何度も懇談。柱を「教育活動支援」「不登校・外国人支援」の 2 つに決定。
- ③ 学年部から出された連携したい内容を、一覽にし、協力者を募る。
- ④ 特別支援学級のボッチャ講師、街探検見守り、家庭科ミシン補助、多文化共生授業講師など授業支援実施。地域での居場所づくりのための情報共有をし、改善を重ねている。

(◎成果と●課題)

- ◎管理職や教員が普段から地域力を把握し、関係者と対話を重ねていることで、地域と学校との信頼関係が土台にある。学校だけに任せず、地域で子供を育てようとする雰囲気がかんたん高まっている。
- ◎活動内容を共有メール等で配信することで、学校教育に対する関心と協力体制が広まりつつある。
- ◎コーディネーターを中心に社協や地域関係者とつながり、できる時にできる人が無理なく活動でき、参加者も充実感を味わうような素地ができつつある。
- 不登校不適応、要支援外国人家庭が多く、今後活動の幅を広げていくことが望まれる。一部のボランティアに負担が偏らず、学校を核に地域の中で気軽に関わりができる組織づくりを、今後どう進めていくか。

(関係者の声)

- ・お母さんは日本語が分からないので、地域の人に毎週国語の本読みを聞いてもらったり、算数の宿題を覚えてもらったりできてうれしい。長い休みにも、書初めなどの宿題や、福笑いなどの日本のことを覚えてもらえてうれしい。たくさんの人に見守ってもらえて、ありがたい気持ちになった。(児童)
- ・外国人の子の学習支援や、不登校家庭への家庭訪問などの連携を、地域の方がしてくださるのはありがたい。教科や総合的な学習の授業に関わってもらうことで、安全に作業や移動ができ、教師だけではできな

い児童の学び合いが深まった。準備や打ち合わせに少し時間はかかるが、人手が増えて子供が生き生き学んでいる姿は嬉しいです。(教師)

- ・地域の方が生活科や家庭科の授業に参加し、楽しかったと子供から聞いた。親として安心。(保護者)
- ・日本語で教えられないし忙しいので、地域で見てもらえてうれしい。(外国人保護者)
- ・授業で児童との触れ合いが楽しい。外国籍の子は日本語を学ぼうと熱心で、やりがいがある。(地域)